



学校だより

平成31年3月12日

練馬区立北町西小学校

校長 吉川 文章

学校評価臨時号

「北町西小学校の教育についてのアンケート」まとめについて

日頃より、本校の教育活動についてご理解とご支援をいただきありがとうございます。ご協力いただいた「北町西小学校の教育についてのアンケート」の結果がまとまりましたので、下記の通りお知らせいたします。来年度の北町西小学校の教育に生かしてまいります。

<保護者・地域アンケート> <児童アンケート> <教職員アンケート>

記

*回収数と回収率

児童360名(93%) 保護者・地域124名(40%) 教職員 23名(100%)

*評価項目・結果のまとめ(%)

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

Eは全体の割合には入れておりません。割合は四捨五入しておりますので、合計が100%にならないことがあります。

*質問(保・教) (保護者・教職員) (児) (児童)

【評価項目1】 生活指導

単位(%)

質問項目	評価	児童	保護者	教員
(保・教) 大人が模範になり挨拶をすることを学校経営の中核にすえ、教職員が訪問者に対して率先しておじぎや会釈を伴った挨拶を行っています。北西の児童は、児童の礼儀正しい挨拶ができているとお声を教育委員会や来校者の方から頂いております。この取り組みは成果をあげているのでしょうか。	A	41.0	53.3	18.2
	B	47.8	36.7	63.6
	C	8.8	7.5	18.2
	D	2.4	2.5	0
(児) お世話になった方や来校者、先生などへ礼儀正しくあいさつをすることができている。				

<評価結果と次年度の改善策> 分離礼が身に付き、様々な場面で実践できる児童が増えてきました。校外学習の見学先でも本校のあいさつを褒めてくださることが多くなっています。この成果を継続できるよう、相手にきもちのよいあいさつを意識付け、今後も週目標として意識付けたり北町中学校と連携してあいさつ運動に取り組んだりいたします。

【評価項目2】 特別支援教育

質問項目	評価	児童	保護者	教員
(保・教) 一人一人の人格や発達を大切に、子供や保護者の心根に寄りそうという考えの元、特別支援教育を推進しています。困り感のある児童に対して保健室などにクーリングダウン機能をもたせたり、スクールカウンセラー、心の相談員などの専門家や生活支援員、大学との連携によるティーチングアシスタントの人材活用を通じた児童への支援を行ったりしております。また、ことばの教室からの助言により支援のための専門性を磨いています。この流れの中、昨年度から開設した「スター(才能開発ルーム)」をシンボルに、「全ての児童の発達に照らし合わせた指導」をめざしています。学校だよりでもコーナーを設けて皆さんにご覧いただいているところです。このような取り組みは成果を上げているのでしょうか。	A	44.8	52.1	27.3
	B	25.2	37.5	68.2
	C	14.8	9.4	4.5
	D	15.1	1.0	0

(児)トラブルが起きたりなやんだりした時に保健の先生や学校生活支援員の先生など、担任の先生以外の方にも、相談できると思う。				
---	--	--	--	--

<評価結果と次年度の改善策> 7割の保護者に、本校の特別支援教育をご理解していただいておりますが、2割強の保護者からわからないとのご回答をいただきました。特別支援の視点をもった教育はどの学級においても有効ですが、保護者の皆様には伝わりにくい内容かもしれません。保護者の皆様には、今後ユニバーサルデザインなど、どの児童にも関わる事柄をお伝えしてまいります。

【評価項目3】学力向上

質問項目	評価	児童	保護者	教員
(保・教)朝学習、東京ベーシックドリルの活用、学習補充教室を数年にわたって継続的に取り組み、「基礎基本の学力定着」を目指してきました。その成果が国や都の学力調査にも徐々に現れています。(国の平均を超えるなど：h29 調査結果特別号で発信)今年度は、さらに「楽しく主体的に問題を解決する」ことを指導の重点に加え、「学力アクションの取り組み(学校便り5月号発信)」を始めました。教員が作成した自作問題を解いたり、文部科学省の資料を授業に反映したりしながら主体的・対話的で深い学びの実現を目指しています。また、1月には、「学力選手権」を開催し意欲喚起も目指します。本校の学力向上の取り組みは成果を上げているでしょうか。	A B C D	44.8 25.2 14.8 15.1	35.5 52.3 12.2 0	5.2 79.0 15.8 0
(児)漢字や計算などの学力の基本となるものから、応用問題まで、「自分の学力はしっかり上がっている」と感じる。				

<評価結果と次年度の改善策> 年々、本校の課題である学力の向上は成果を上げてきています。しかし、保護者、教員とも十分ではないという結果です。基礎基本の定着を図るとともに、主体的、対話的で深い学びを実践し、学ぶ楽しさを味わわせる授業を目指してまいります。「学力アクション」の取り組みを定着させ、本年度始めた「学力選手権」を定例化して参加する児童を増やしていきます。

この項目は14%の保護者様から「わからない」とのご回答がありました。わかりにくかったのは1月に実施した高学年対象の学力選手権ではないかと考えます。HP等で情報を発信してまいります。

評価項目4 家庭への情報発信

質問項目	評価	児童	保護者	教員
(保・教)『学校だより』をA3の裏表版にして「特別支援教育や周年行事コーナー」を設けて、教育活動の取り組みなどを発信しています。学校ホームページで、教育活動や給食献立、宿泊行事(当日即時掲載)夏季水泳指導の実施有無についてなど、毎日の情報発信に努めています。(年間換算：アクセス数約4万件)「緊急メール」を活用して、緊急時の連絡や宿泊などの帰校時刻、諸連絡を発信し、安心・安全のための情報の速やかな伝達を心がけています。学校からの発信と説明責任について成果を上げているでしょうか。	A B C D	46.7 36.1 13.3 3.9	69.4 27.3 2.5 0.8	50.0 50.0 0 0
(児)おうちの人から、きんきゅう配信メールでとどいた学校の情報をきいたり、学校のホームページを確認して夏休みのプールがあるかどうかを確認したりした。				

<評価結果と次年度の改善策> 学校だよりの紙面を拡大し、取り組みの目的や様子等を家庭・地域にお知らせする記事を多くしたり、HPの更新回数を増やしたりしたことが成果として表れたと捉えております。次年度もできるだけ多くの発信を行い、学校教育のご理解をいただく手段として活用してまいります。緊急時のメール配信は児童の安全のための情報発信であるため、登録を確実に行うようお願いいたします。

評価項目 5 保護者・地域と連携した教育活動

質問項目	評価	児童	保護者	教員
(保・教)読書ボランティア「りんごの会」による読書推進活動、「おやじの会」による岩石園・池の清掃・整備やパトロール等、PTA 校外補導委員会を中心にした地域パトロールや安全安心ボランティア委員会による学校防犯対応、課外活動金管バンドへのご支援、地域の皆様のご指導によるおまんじゅう作りなど、多くの学校支援のもと教員の負担も軽減され教育活動が円滑に進められています。学校と PTA 等をはじめとする保護者の皆様との連携による支援の活動、地域の皆様との連携した教育活動は、有効に働き成果を上げていますか。	A	74.0	66.4	57.1
	B	18.0	30.3	42.9
	C	4.0	2.5	0
	D	4.0	0.8	0
(児)おうちの人から、きんきゅう配信メールでとどいた学校の情報をきいたり、学校のホームページを確認して夏休みのプールがあるかどうかを確認したりした。				

<評価結果と次年度の改善策>各活動は、本校の教育を支えてくださる保護者・地域の活動は、保護者の皆さまに浸透しており、様々な形で関わってくださっています。また、地域とのつながりも深く、教育活動での支援をいただいていることが保護者の皆さまにも伝わっています。今年度開校60周年記念行事を実施したことにより、より保護者、地域と絆を深めることができました。この実績を次年度にもつなげ、本校児童の育成に関わっていただけるようお願いいたします。

評価項目 6 いじめ防止 望ましい人間関係の構築

質問項目	評価	児童	保護者	教員
(保・教)毎月、予防的観点の項目を含めた「いじめについてのアンケート」を行い、全職員共通で絶対に使ってはいけない「うざい・きもい・死ね」などの言葉の根絶に取り組んでいます。アンケートの結果については、「学校便り特別号(今年度は2月予定)」として発信をするなど理解啓発を図っています。この取り組みにより、いじめの解決数が増え、訴えが減少するなど数値の上でも成果が現れています。いじめの早期発見・早期解決や児童相互の望ましい人間関係の構築について成果を上げているでしょうか。	A	34.3	40.6	19.1
	B	30.1	46.5	66.6
	C	18.4	10.9	14.3
	D	17.2	2.0	0
(児)いじめアンケートを行ったり、道徳の授業を受けたりすることで、「うざい・キモい・死ね」の言葉を使ったりいじめをしたりする人はへった。				

<評価結果と次年度の改善策>道徳の時間や学級活動の時間を活用して友達に接する態度や思いやりの心を育てる指導を行っております。いじめ等のアンケートの内容を改善して、自分の言動を顧みる機会としております。また、使っていけない言葉が児童に浸透してきましたが十分ではありません。これからも今後も様々な機会をとらえて指導し、SNSの活用のしかた等課題となる事柄について、保護者と連携を図りながら児童の望ましい人間関係を構築する指導を行います。

この項目も保護者様の18.5%から「わからない」とのご回答がありました。保護者へ特別号の発信を準備しております。発行が遅れましたが、中旬に発行いたしますのでご覧いただきたく存じます。

アンケート結果について

今年度は項目を絞り、本校の教育の重点項目に焦点をあてた教育アンケートにしました。評価しやすいように内容を具体的に表しました。アンケートの回収率を高める工夫をさらにしてまいります。

アンケートの項目によって、「わからない」という回答があったことを受け止め、さらに保護者の皆様に学校だよりやHP等で本校の取り組みをご紹介してまいります。

今年度もPTAの活動や読書ボランティア「りんごの会」「おやじの会」、町会等地域の皆様によるご支援が、本校の教育活動を支えてくださる大きな力となっていることを示す結果が表れています。

今年度の教育活動について

成果

- ・学力の向上に関しては、年々都の平均値に近づいております。本校の学力向上の取り組みの成果と捉えております。
- ・あいさつは、保護者、児童とも80%以上がよい評価をしています。教職員から見ると、さらに向上させたいという願いが数値に表れたといえます。6学年児童がよい手本となっているとの声をいただいております。
- ・本校の特色の一つとして特別支援教育の充実が挙げられます。アンケートの結果も肯定的な評価をいただくことができたと思います。登校支援も含め、関係諸機関と連携を図り、あらゆる支援を行ってまいります。
- ・いじめのアンケートに「友達がいやなことをされているとき、見たのに見ないふりをしたことがあるか」「『うざい』『死ね』等の言葉を使ったことはないか」等の設問を入れることにより、いじめの予防的視点を入れた取り組みとなりました。このことにより、どのようなことがいじめになるのか、児童が考える機会となったと捉えております。

課題

- ・学力を東京都平均に近づけることが課題です。基礎的・基本的内容の定着とともに活用力を向上させることに重点を置きます。
- ・さまざまな課題をもつ児童の実態に合わせて、支援体制を整えることが課題です。校内組織を活用するとともに外部機関とも連携を図ります。

来年度の教育活動について

学力の向上について

- ・「学力アクション」を推進します。教員の自作問題を出題する「学力選手権(学力グランプリ)」を年2回実施し、児童が学ぶ楽しさを味わえるようにします。
- ・特別支援教室の手法を取り入れ、全ての児童の発達に照らし合わせる授業を行うことを意識した指導計画を作成し、教室環境を整えます。

体力の向上

- ・児童の運動意欲を喚起させ、挑戦する楽しさを味わわせるために「北西ギネス」を実施します。
- ・受動の受動握力向上のために固定遊具を活用した取り組みを多く取り入れます。

道徳教育について

- ・命を大切にすることを推進するために難病当事者による「命の授業」と原爆体験の講話「原爆先生」の授業を実施し、自他の存在を大切にすることを児童に育成します。

豊かな人間関係の醸成について

- ・「分離令」を基盤にしたあいさつを定着させます。また、教職員が範となるあいさつをして礼儀正しい児童の育成を目指します。
- ・北西小で使ってはいけない言葉「うざい」「きもい」「死ね」を根絶させます。

いじめ防止への取り組みについて

- ・児童の実態に合わせ、「うざい」「きもい」「死ね」などの言葉を自分が使っていないか、SNSで悪口を書き込まなかったか等、いじめの予防的視点からのアンケートを実施します。

学習・生活指導の斉一的な指導

- ・「下敷き」の使用を学習規律のシンボルとして、学習規律を確立します。